

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第3巻第28号

第28週(7月7日～7月13日)

発行年月日:平成15年(2003年) 7月 18日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～4類)

感染症類型	疾患名	報告数 (28週)	累積報告数		平成14年報告数	
			滋賀 (28週)	全国 (28週)	滋賀	全国
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	2	221	6	693
	パラチフス	0	0	19	1	33
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	6	804	14	3132
4類感染症	アメーバ赤痢	0	2	269	6	453
	エキノコックス症	0	0	11	1	9
	オウム病	0	1	32	0	55
	急性ウイルス性肝炎	1	2	458	2	915
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	60	2	146
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	37	1	90
	後天性免疫不全症候群	0	5	449	6	888
	ツツガムシ病	0	1	131	0	329
	梅毒	0	1	256	4	561
	破傷風	0	1	33	0	105
	レジオネラ症	1	1	62	1	166

*平成14年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

2) 定点把握の対象となる4類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.69	1.86	1.00	0.25	0	0.25	0.25	0	
A群溶連菌咽頭炎	1.22	0.71	2.17	0	1.80	1.00	0	4.00	
感染性胃腸炎	1.75	5.57	2.50	0.25	0	0.25	0	0	
水痘	1.59	2.29	2.00	1.25	1.40	1.25	1.50	0	
手足口病	1.69	1.43	2.67	0	1.40	3.25	0.75	2.50	
伝染性紅斑	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0	
突発性発疹	0.84	0.86	2.00	0.50	0	1.00	0.25	1.00	
百日咳	0.03	0	0	0.25	0	0	0	0	
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	5.50	9.71	6.00	2.50	3.80	3.00	4.75	6.00	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.59	0	0.50	0	0.20	1.00	0.50	4.50	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0	
急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.86	1.00	0	0	0	0	5.00	0	
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

0 1 2 3 4 5 6 7
定点当たり患者数

3)今週のトピックス

ヘルパンギーナの発生は、昨年同時期より増加傾向 レジオネラ症の報告基準

定点把握の対象となる4類感染症の発生状況を先週と比較すると、A群溶連菌咽頭炎、突発性発疹、無菌性髄膜炎等の定点当たり患者数が増加しています。感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ等の定点当たり患者数は減少しています。

咽頭結膜熱については、先週に引き続き**大津**および**草津**保健所管内の定点当たり患者数が多くなっています。

A群溶連菌咽頭炎については、**今津**保健所管内の定点当たり患者数が先週に引き続き多くなっており4.00となっています。

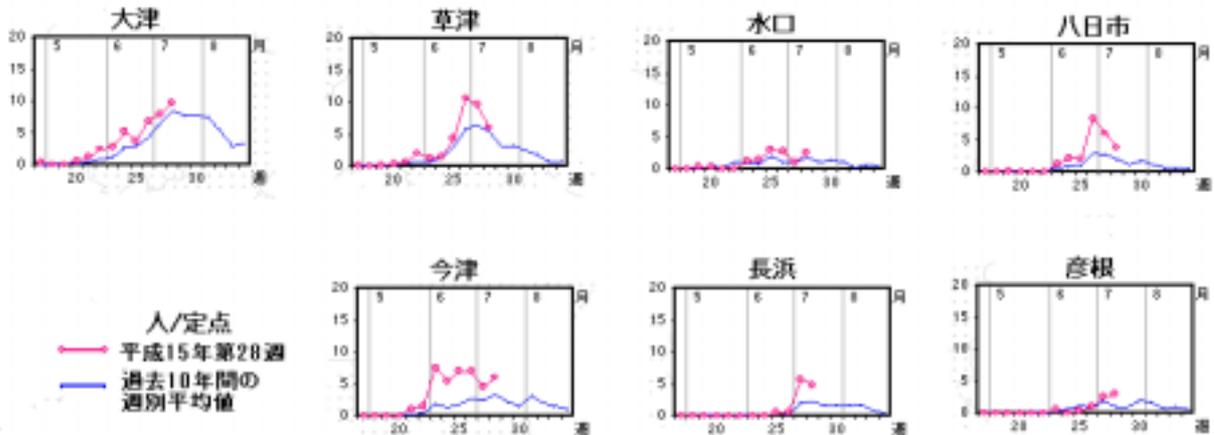
感染性胃腸炎については、減少傾向となっていますが、**大津**保健所管内の定点当たり患者数は5.57と多くなっています。

ヘルパンギーナについては、先週と比較すると定点当たり患者数は減少していますが、昨年の同時期と比較するとかなり多くなっていますので、今後の発生動向に注意する必要があります。

流行性耳下腺炎については、**今津**保健所管内の定点当たり患者数が4.50と多くなっています。

* ヘルパンギーナの保健所管内別発生状況は下記のグラフのとおりです。

ヘルパンギーナの保健所管内別発生状況(平成15年第28週)



レジオネラ症の報告基準(健医感第46号 平成11年3月30日 厚生省保健医療局結核感染症課)

[定義]

Legionella属菌(Legionella pneumophila)が原因で起こる感染症の総称である。

[臨床的特徴]

在郷軍人病(レジオネラ肺炎)とポンティアック熱が主要な病型である。免疫不全者に感染すると、時に心内膜炎や腹膜炎などの全身の化膿性病変を起こす。臨床症状で他の細菌性肺炎と区別することは困難である。

[報告のための基準]

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

病原体の検出

例: 臨床材料(肺組織、痰、胸水、血液、他の無菌的部位)からの菌の分離、Serogroup 1の場合は臨床材料(肺組織または気道分泌物)からの菌の検出(直接蛍光抗体染色法)など

病原体の抗原の検出

例: 尿中抗原の検出(EIA法)など

病原体の遺伝子の検出

例: 臨床材料からの遺伝子の検出(PCR法)など

病原体に対する抗体の検出

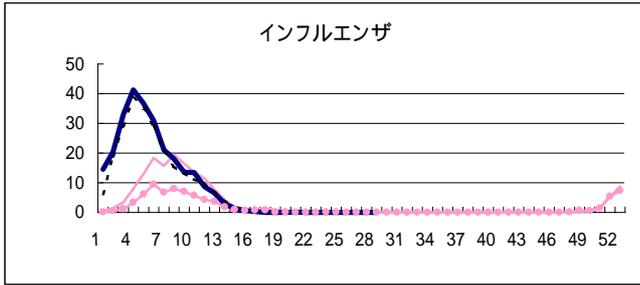
例: 間接蛍光抗体法での特異抗体価の上昇(ペア血清で4倍以上の上昇、または単一血清で256倍以上)など

感染症発生動向調査に基づくレジオネラ症の発生状況(平成11年第14週～平成15年第28週)

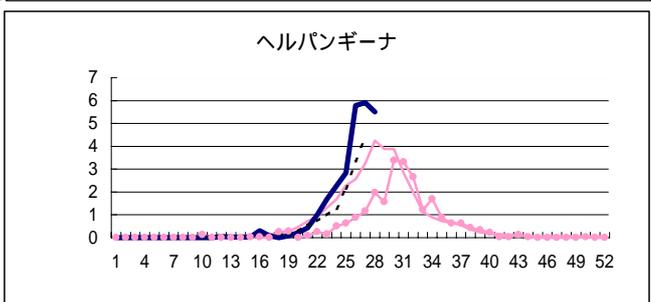
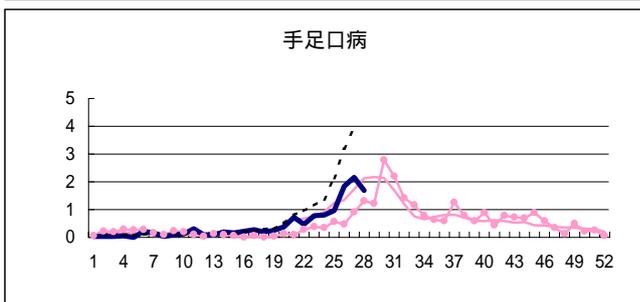
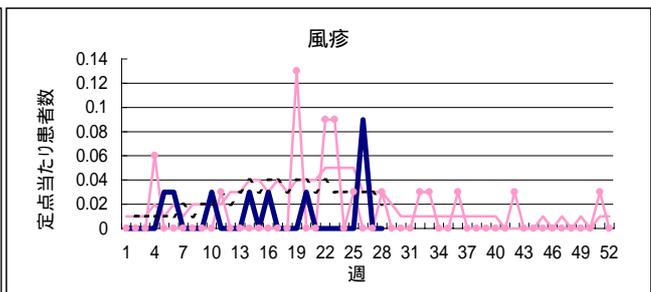
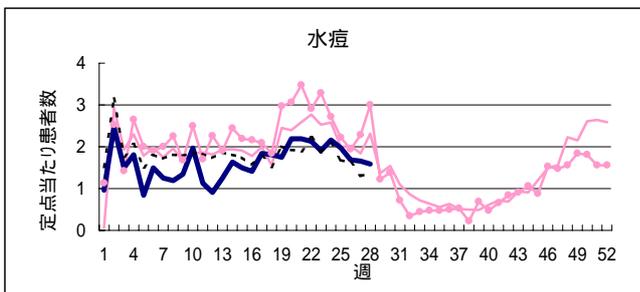
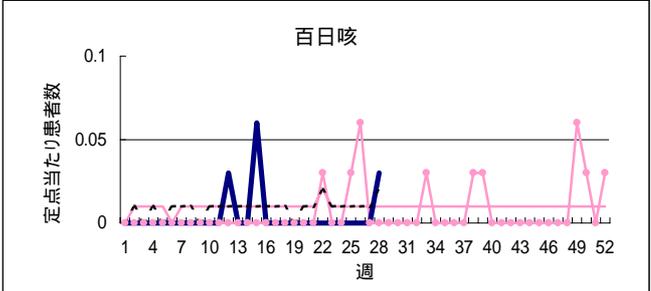
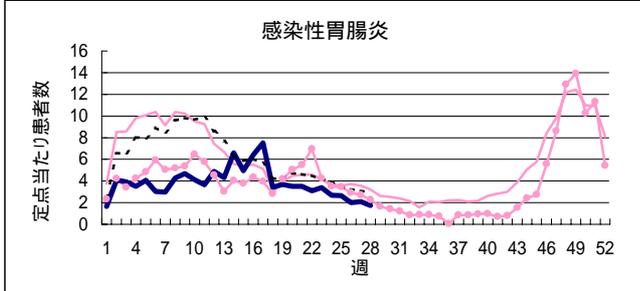
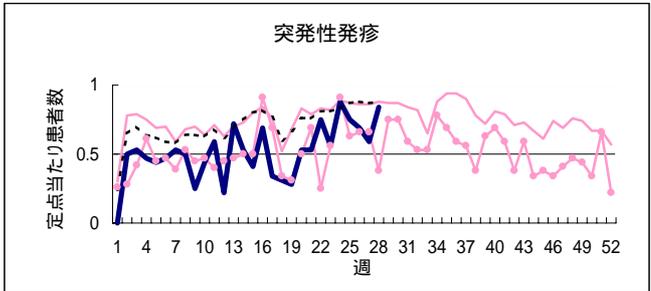
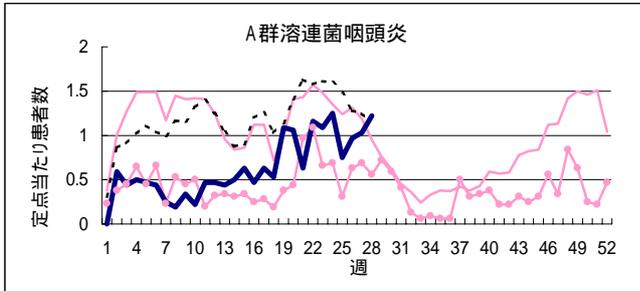
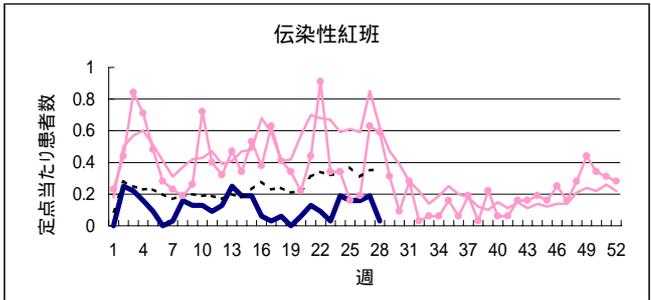
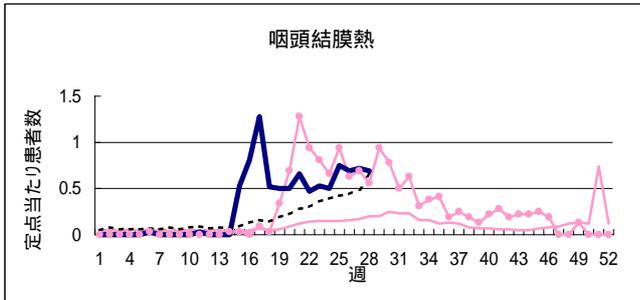
レジオネラ症累積報告数(人)

	H11	H12	H13	H14	H15
滋賀県	1	2	1	1	1
全 国	56	154	86	166	62

疾病別定点当たり患者数(平成15年第1週～第28週)



H14 { 滋賀 (pink line with dots)
 全国 (light pink line)
 H15 { 滋賀 (solid blue line)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成15年第1週～第28週)

H14 〔 滋賀 ●●●●●● 全国 ————
 H15 〔 滋賀 ———— 全国 ●●●●●●

